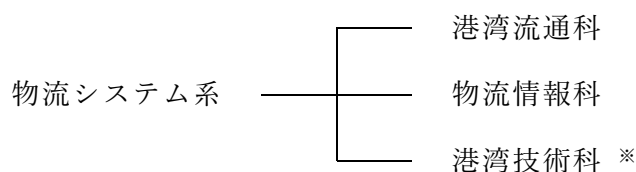


物流システム系の教育訓練目標

物流システム系の構成（能開大に設置されている科のみ表記）



※ 港湾技術科については、職業能力開発促進法施行規則 別表第六に依らず、港湾業務に必要な技能を習得させるために適切と認められる科目を整備した訓練科である。

■業界に求められる人材像

物流システム分野では、物流システム技術の高度化、情報化に対応した物流（陸上、海上及び航空の手段を活用した物の流れ）を管理し、産業構造や市場構造の変化に対応する必要がある。企業戦略の変化を的確に把握すると共に、それに対応した物流システムを管理し、かつ、効率的に運用できる能力を兼ね備えた、実践力と物流分野における幅広い知識・技術を持った人材が求められる。

（1）港湾流通科

■教育訓練目標

近年、経済のグローバル化や情報技術の発達は、世界中に「モノ」が移動することを意味し、特に貿易、通関、輸送等の流通業務では複合的かつ統合的な連携が重要になり、港湾・物流業界も大きく変革する時代を迎えている。こうした変革する時代に適応する能力を身につけるには、流通業務に関連する知識、情報に関連する知識や技術、港湾業界で求められる実践技術に関する高度な知識と技術が必要となる。

港湾流通科では、グローバル経済下において産業・事業構造が変化している現状では、港湾・物流機能は最も不可欠な存在であるとする観点から、港湾業界から広くグローバル・ロジスティクスまで多岐なニーズに対応できる実践技能者を教育訓練目標とする。

(2) 物流情報科

■教育訓練目標

今日の物流は、ロジスティクスとも呼ばれ、企業活動における原材料調達、生産、保管、輸配送、販売までの諸活動が、情報技術を駆使して川上から川下までを総合的に管理し、最適な運営をすることが求められている。こうした物流の高度化に対応する物流システムの構築や効率化を推進するための、物流に関する知識や情報技術を使いこなす能力はもちろん、物流現場の課題や問題に対して柔軟に対応できる判断力が必要である。

物流情報科では、ロジスティクスに立脚したサプライチェーンの現状を踏まえ、物流環境の変化や多様な物流業務に対応できる実践技能者の育成を教育訓練目標とする。

(3) 港湾技術科

■教育訓練目標

港湾産業は、物流及び流通の機能を担う産業であり、貿易立国としての重要な産業の一つとして位置づけられている。港湾には、実際に貨物を動かす、いわゆる「港湾物流」がある。現代の港湾物流は、機械化、自動化、IT化され、取り扱う貨物も多様化している。

港湾技術科では、港の仕組みや仕事の流れについての知識や技術を基礎から体系的に修得し、港湾業務（荷役方法の計画、作業管理、労務管理等）の現場管理に関する分野、港湾荷役機械の知識及び運転技能・技術に関する分野、港湾荷役システムの構成と自動化・システム化技術に関する分野に重点をおいた港湾物流のニーズに対応できる実践技能者の育成を教育訓練目標とする。